

エルキ・フータモ

(UCLA デザイン・メディアアート研究科教授・メディア考古学)

「メディア、運動、交通—考古学的探究—」



Erkki Huhtamo Professor at Design Media Arts, UCLA

講師紹介

エルキ・フータモはメディア考古学の創設者の一人として広く知られる。メディア文化、メディアアートに関する著作は数多く、世界各地で講義、メディア装置を用いた実演を行うほか、展覧会企画、テレビ番組の制作も行ってきた。現在、カリフォルニア大学ロサンゼルス校において、デザイン・メディアアート、映像、テレビ、デジタルメディア専攻の教授を務める。

近著に *Media Archaeology of the Moving Panorama and Related Spectacles* (The MIT Press, 2013)、『メディア考古学』(太田純貴訳、NTT出版、2015) など。

メディアによる通信と輸送/交通とは、これまでは別々のものだと思われてきた。前者は非物質的な情報のやりとりであり、後者は物体や身体を車などの機械によって運搬することだからである。だが21世紀初頭、メディアによる通信と物質的移動と隔っていた境界は曖昧になりはじめた。移動しながらスマホを見ることが広がると、Uberやeスクーターのような新たなビジネスモデルが生まれ、高度な視覚センサーを備えた自動運転の車が開発されつつあり、AIと深層学習は人間にとって脅威となりつつある。

本講義では、こうした事態をメディア考古学的な視点から論じてみたい。すなわち今の状況を、メディア技術と輸送技術との関係についての過去の文脈に結びつけることで、何が分かるかという問題である。講義では現在から過去に遡り、最後にはまた現在に戻ってくる。はたして過去のメディア文化を見ることは、その未来を知る助けになる。

※講演は英語で行われます。日本語による解説付き。



日時: 2018年12月15日(土)

15時00分~17時30分(開場: 14時30分)

会場: 京都大学 稲盛財団記念館 3階 大会議室

<お申込方法>

E-mailにてお申込みください。

件名に「エルキ・フータモ教授セミナー 申込み」と明記し、必要事項を記入の上、ご送付ください。

必要事項: ①氏名(ふりがな) ②所属先(学部・学年) ③連絡先メールアドレス

申込先/問合せ先: 京都大学こころの未来研究センター リエゾンオフィス

kokoro-sem@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

*定員(80名)に達し、ご参加いただけない場合のみご連絡いたします

主催: 京都大学こころの未来研究センター



KOKORO
RESEARCH
CENTER
KYOTO UNIVERSITY